

2 学年 1 組 国語科学習指導案

児童 男子11名 女子13名 計24名
指導者 穴久保 美雪

1 単元名 音読げきをしよう

学習材 「お手紙」 アーノルド＝ローベル (光村図書2年)

《付けたい力》

- ◎ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。(読ウ)
- 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読すること。(読ア)

物語の場面を想像し、音読劇を行う。

2 単元について

(1) 児童について

児童は、「C読むこと」の指導事項アとウの力を付けることをねらった単元としては、「ふきのとう」で登場人物の様子やしていることに気を付けて読み取ったことを、声の大きさや速さなどを考え、会話文と地の文を分けて音読したり、登場人物を役割分担して音読したりしながら音声表現する活動を経験してきている。

音読について、児童は今までの学習を通して「一斉読み」「追い読み」「一文読み(丸読み)」「交互読み」等を行ってきている。ほとんどの児童は意欲的に取り組み、学習が進むにつれて発音がはっきりしたり、語や文のまとまりを意識したりしながら音読できるようになってきた。しかし、相手に届く声の大きさや言葉がはっきり伝わる速さで音読することは十分とは言えない。また、場面の様子や登場人物の気持ちを音読で表現する意識や技能が身に付いている児童は少ない。確かに読み取ることと、よりよい音声表現(音読)を双方向の学習活動と捉え、その両方を高めることを意識させて音読発表会に向けて取り組ませたい。

(2) 学習材について

学習材である「お手紙」は、かえるくんとがまくんの会話によって物語が展開していく。物語の構成は、3部構成で考えると「はじめ」ががまくんの家の場面、「なか」がかえるくんの家の場面、「おわり」ががまくんの家の場面になっている。最初と最後の場面には郵便受けを眺めるという共通の行為をしているよく似た挿絵があるが、二人の表情により気持ちが「悲しい」と「幸せ」で対比されて描かれていることが分かる。会話文を中心に読むことで、人物の気持ちを捉え、それに合わせた音読の表現を楽しめる作品であり、音読劇をするのに適した学習材である。

(3) 指導について(研究内容との関わり)

① 自分の考えが広がったり深まったりする課題の設定

児童が主体的に学習に関わっていくことができるようにするために、第一次では、「音読げきをしよう」という単元名や「お手紙」という学習材から、児童が考える「学習で大切なことや必要なこと」、「初発の感想」を話し合うことで明確な学習の見通しをもつことができるようにする。二次からは、「AかB」のような選択する課題を多く設定することで全員が自分の意見をもって学習に参加できるようにする。

② 自分の考えを思わず話したくなる対話の充実

「AかB」のような選択する課題から、自分の考えを選んだ理由を伝えるようにする。また、音読の工夫を考える際に、想像した気持ちが分かる表現にしようという意識をもって教え合うようにする。

③ 自分の考えと友達のことをつなげて学びを自覚する振り返りの工夫

「学習の振り返り」を書かせるときに、『今日、一番なるほど思ったのは、〇〇さんです。どうしてかというと〇〇だからです。』という他者評価も取り入れるようにする。

3 単元の指導目標

- 自分が感じた物語のおもしろさが伝わるように、音読劇をしようとする。 【関心・意欲・態度】
- ◎ 場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読をすることができる。 【読むこと】
- 自分の音読と友達の声読を聞き比べて、感想を発表し合うことができる。 【読むこと】
- 主語と述語の関係を理解することができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が感じた物語のおもしろさが伝わるように、音読劇をしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(読ア) ・ 音読劇をするという目的をもって、登場人物の行動や会話に気を付けて読み、場面の様子を想像している。(読ウ) ・ 自分の音読と友達の声読を聞き比べて、感想を発表している。(読オ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主語と述語の関係を理解している。(言イ(ア))

5 単元の指導計画・評価規準 (全12時間)

次	学 習 活 動	○主な指導上の留意点 ◆評価規準 <評価方法>
一	① 単元のためを確かめ、学習の見通しを持つ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ お手紙についての経験を出し合う。 ・ 音読劇をするために大切なことや必要なことは何か話し合う。 ・ 学習材「お手紙」を聞き、初発の感想を書く。 ② 学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 初発の感想をもとに、音読劇をするまでの学習計画を立てる。 ・ 学習材「お手紙」を音読する。 ・ 会話文をだれが言っているのかを確かめ、書き込む。 	○ 「音読げきをしよう」という単元名や「お手紙」という学習材から、児童が考える「学習で大切なことや必要なこと」、「初発の感想」を話し合うことで明確な学習の見通しをもつことができるようにし、初発の感想を生かして学習計画を立てるようにする。 ◆ 音読劇を行うという目標に向かって話し合ったり初発の感想から学習計画を立てたりしようとしている。 【関・意・態】<態度・発言・ノート>
二	③ 物語の設定や登場人物の関係、出来事を大まかに押さえる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 場所、登場人物、出来事などを大まかに捉える。 ・ あらすじをまとめる。 ④ 大急ぎで帰って手紙を書き、またがまくんの家へ戻るまでのかえるくんの行動や言い方のスピードを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 動作化をして、かえるくんの気持ちを考える。 ・ 会話文をもとに、かえるくんとかたつむりくんの言い方を考える。 ⑤ 窓から郵便受けを見るのかえるくんが、一番どきどきしているか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ がまくんがどんどん機嫌が悪くなっていく様子を想像しながらかえるくんの会話を考える。 ・ 動作化をして、かえるくんの気持ちを考える。 	○ ワークシートに場所、登場人物、出来事を書き込んで全体を捉えるようにする。 ◆ 音読劇をするために、話の内容を大まかに捉えている。 【読ウ】<ワークシート> ○ 全員が自分の意見をもって学習に参加できるようにする。 ◆ がまくんの家へ戻るまでのかえるくんの行動や会話に気を付けて読み、場面の様子を想像している。 【読ウ】<発言・ノート> ○ 全員が自分の意見をもって学習に参加できるようにする。 ◆ 窓から郵便受けを見るかえるくんの行動や会話に気を付けて読み、場面の様子を想像している。 【読ウ】<発言・ノート>

	<p>⑥ がまくんの気持ちがいあわせにかわるころはどこか考える。〈本時〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ がまくんの会話からいあわせな気持ちに大きく変わるところを考える。 ・ はじめとおわりの場面をとらえ、変容を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全員が自分の意見をもって学習に参加できるようにする。 ◆ お手紙の話を書くがまくんの行動や会話に気を付けて読み、場面の様子を想像している。 【読ウ】〈発言・ノート〉
	<p>⑦ 手紙を預ける相手は、かたつむりくんではない方が良かったのではないかと、考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長いこと待っていた二人の気持ちを想像する。 ・ お手紙をもらって喜んだがまくんの様子を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全員が自分の意見をもって学習に参加できるようにする。 ◆ 長いこと待っていた二人やお手紙をもらったがまくんの行動や会話に気を付けて読み、場面の様子を想像している。 【読ウ】〈発言・ノート〉
三	<p>⑧ 音読したい部分を決め、ノートに書き写して音読の工夫を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音読劇で読みたいところを選び、ノートに書き写す。 ・ 読み方や動きについて書き込む。 ・ 音読練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までに学習したことを想起させて、お気に入りの場面を見つけることができるようにする。 ◆ 登場人物の行動や出来事から場面の様子を想像し、お気に入りの場面を見つけている。 【読ウ】〈ノート〉
	<p>⑨ グループで音読劇の練習を行い、良さや改善点を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ部分を選んだ友達とグループを作る。 ・ グループで音読劇の練習をする。 ・ 友達からももらったアドバイスや感想、友達の読みの良かったところを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 読み方の工夫に気を付けて、グループで協力して音読の練習をしている。 【読ア】〈発言・音読〉 ◆ グループで音読の工夫について、感想やアドバイスを伝え合っている。 【読オ】〈発言・ワークシート〉
	<p>⑩ 音読の工夫を全体で交流し合い、グループで音読の工夫を見直し、練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場面ごとに音読の工夫を発表する。 ・ 発表をもとに、自分やグループの音読を見直す。 ・ 見直したことを生かして、グループで練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発表を聞くときは、読み方と動きの二つの視点で聞くように促す。 ○ 発表をするときは、役割分担や工夫した部分、工夫した理由について話すことで聞き手がそこを意識できるようにする。 ◆ 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 【読ア】〈発言・音読〉
	<p>⑪ ⑫音読劇を発表し合い、感想を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音読発表をする。 ・ 発表を聞いて、感想を書く。 ・ 感想を発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 登場人物の行動や会話に気を付けて場面の様子を想像しながら、音読している。 【読ウ】〈発言・ワークシート〉

6 本時の指導

(1) 目標

「がまくん」の気持ちの変容を交流しながら、場面の様子を想像することができる。【読ウ】

(2) 展開

学習活動	・指導上の留意点 ◆評価 <評価方法>
1 学習計画を確認する。 2 本時の学習課題をつかむ。	・ 学習計画を基に、単元における本時の位置付けを確認する。
がまくんの気持ちがしあわせにかわる場所はどこか考えよう。	
3 学習の見通しを確認する。	・ 学習のゴール、学習内容、学習プロセスを確認し、どの子どもも主体的に学習に関わることができるようにする。
4 学習課題を解決する。 (1) 自分の考えをもち、交流する。 (2) 全体で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えを書いた後、ペアやグループで交流させる。その際、できるだけ自分の考えを選んだ理由を伝えると共に、友達の原因もしっかり聞くようにする。 ・ それぞれの立場の主張について、整理しながら板書する。 ・ 話を聞くときには、「なるほど。」と思える友達の考えを意識させながら交流させ、学習の振り返りにつなげる。 ・ 教師が児童の考えに目を通しておくことで、個々の不足分を補ったり感想の深まりなどを見取って価値付けたりすることができるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆ 「がまくん」の気持ちの変容を交流しながら、場面の様子を想像している。 【読む】<発言・ノート></p> </div>
(3) かえるくんの気持ちを確かめる。 (4) 音読をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「二人とも、しあわせな気持ちでそこにすわっていました。」の文から「がまくん」がしあわせな気持ちになることで、「かえるくん」もしあわせな気持ちになっていることに気付かせる。 ・ がまくんの気持ちがしあわせに変わるところや二人のしあわせな様子が分かるように音読しようと促す。
5 本時学習を振り返る。	・ 『今日、一番なるほどと思ったのは、〇〇さんです。どうしてかという〇〇だからです。』という他者評価を取り入れるようにする。
6 次時の学習を確認する。	・ 次時は、「手紙を預ける相手は、かたつむりくんではない方が良かったのではないかを考える」時間であることを確認する。

(3) 評価

評価規準 <評価方法>	◆ 「がまくん」の気持ちの変容を交流しながら、場面の様子を想像している。 【読む】<発言・ノート>
記述例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「きみが。」のところだと思います。手紙をもらえることが分かったからです。 ・ 「ああ。」のせりふでしあわせな気持ちになったと思います。手紙に感動して、声が出たと思いました。 ・ 「いいお手紙だ。」のところだと思います。お手紙の文が素敵だと思っていて、親友と書いてくれたかえるくんが隣にいることが幸せだと思っています。(がまくんの気持ちがしあわせにかわる場所はどこか自分の考えをまとめる。)